



HOKKAIDO UNIVERSITY CAMPUS MASTER PLAN 2018



企画・編集

北海道大学 施設・環境計画室
発行：平成 30 年 3 月 20 日

【お問い合わせ】
北海道大学 施設部施設企画課
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL 011-706-2838 FAX 011-706-4886

ホームページ

<http://www.facility.hokudai.ac.jp/>

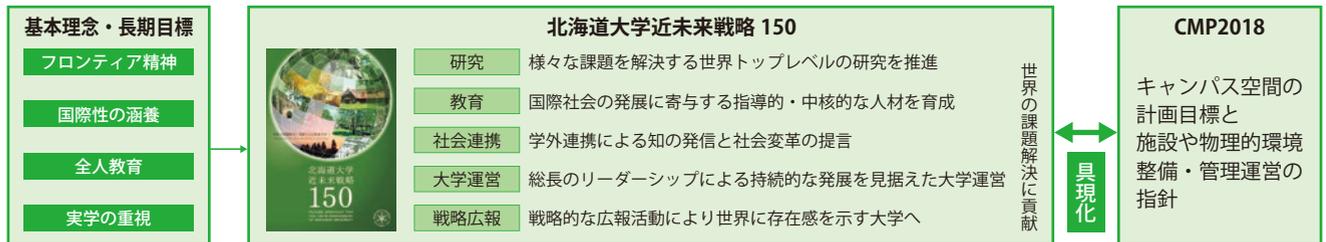
北大 施設部 SEARCH 🔍

キャンパスマスタープラン 2018 の特徴

北海道大学はこれまで全国の国公立大学に先駆け 20 年にわたりキャンパスマスタープランによる取組を推し進めてきました。このたび策定しました「北海道大学キャンパスマスタープラン 2018 (CMP2018)」は、計画の総合性と実効性を最重視するものであり、その大きな 4 つの特徴を示します。

1

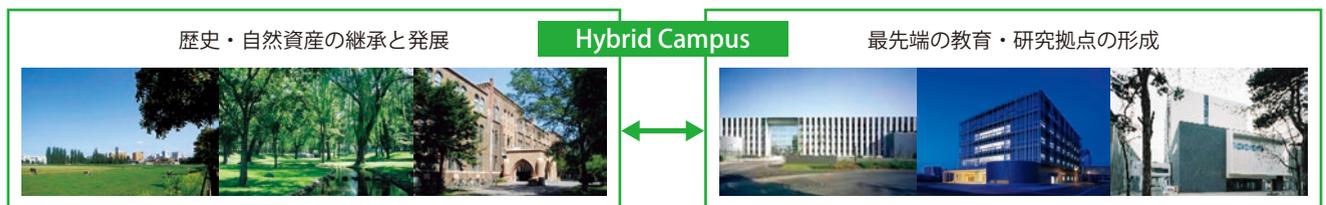
大学の経営戦略の具現化： 4 つの基本理念の堅持と北海道大学近未来戦略 150 の実現



創基 150 年に向け大学の経営戦略の具現化を支えるために、キャンパス空間の計画目標、施設や物理的環境整備・管理運営の指針を明確に定めています。

2

サステイナブルでハイブリッドなキャンパスの創造： 大学の歴史・自然資産を継承、発展させた最先端の研究・教育拠点の形成



本学の広大で独自のランドスケープや歴史的建造物・自然環境を継承・保全することと、世界トップレベルの研究を推進するための最先端の研究・教育拠点の形成といった 2 つの方向性を包含する中長期的な大学像として「サステイナブルでハイブリッドなキャンパスの創造」を掲げます。

3

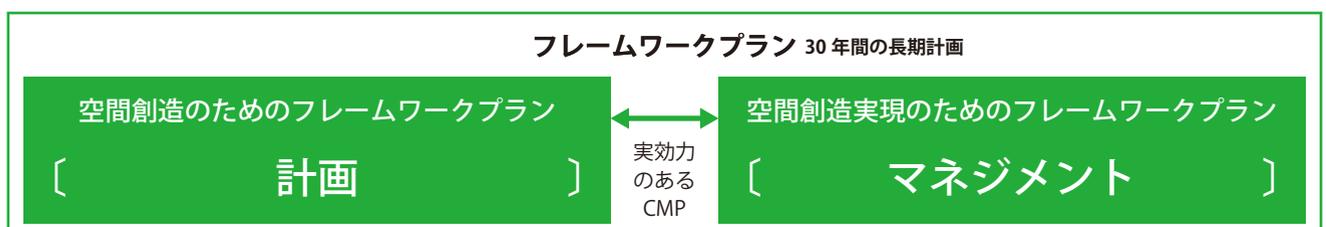
トータルデザインによるクオリティ・オブ・ライフの向上： 企画・計画・設計から運用・管理までを含めた総合的なデザイン



社会全体における人間の生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL=quality of life）の向上に寄与するため、研究教育活動へのニーズに対し、一貫性のあるトータルデザインの考えをベースに構築します。

4

キャンパス空間の創造を具現化する実行力のある長期計画： 【計画】と【マネジメント】の 2 つで構成されるフレームワークプラン

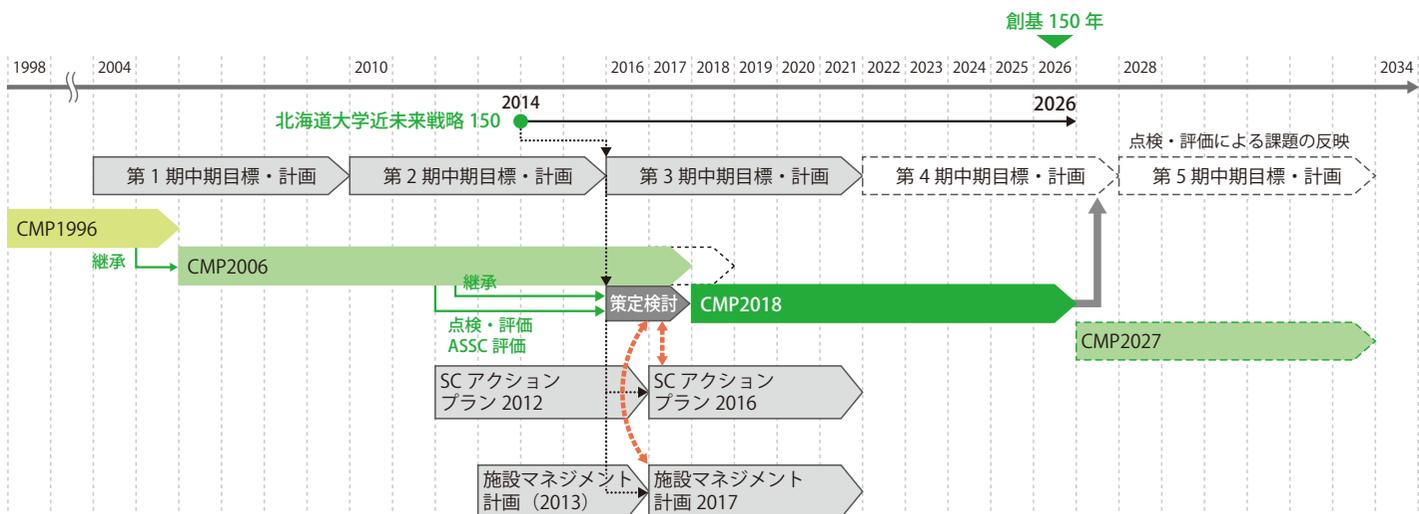


実効性に重きを置き、「空間創造のためのフレームワークプラン（計画）」と、それを実現させる仕組み・体制等について定める「空間創造実現のためのフレームワークプラン（マネジメント）」の 2 つを持つ計画構成とします。

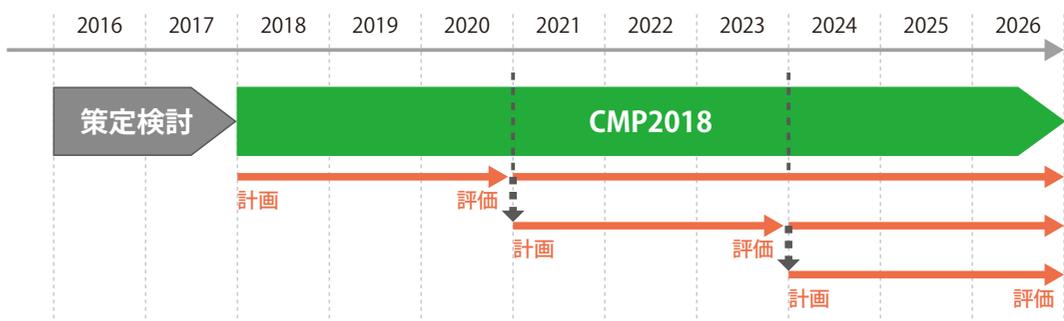
キャンパスマスタープラン 2018 の計画スパン

CMP2018 は、大学経営理念に基づいた本学の改革戦略である「北海道大学近未来戦略 150」の計画期間にあわせた 2026 年までの 9 年間を計画期間とします。

計画期間を 2026 年までとすることで、第 4 期中期目標・計画の終了年次（2027 年）にリンクさせ、CMP2018 の点検・評価による課題点を踏まえた新たな中期目標・計画の策定につなげます。

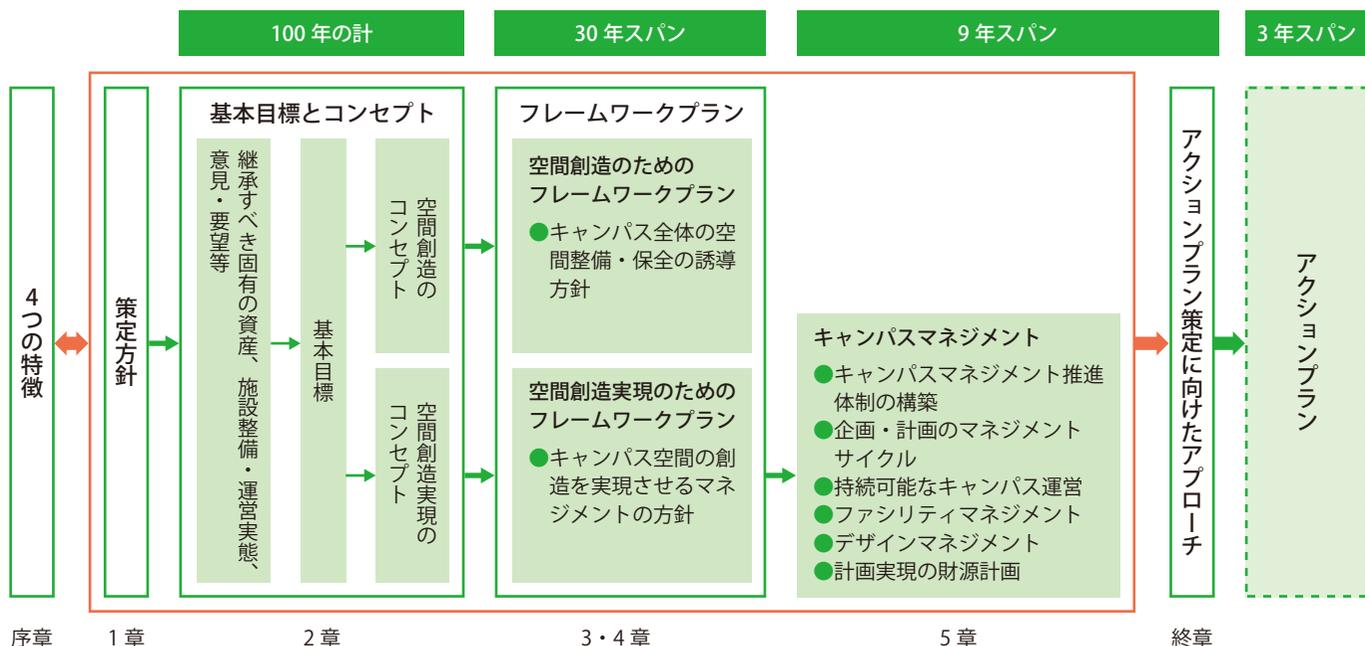


CMP2018 は、大学を取り巻く状況の変化や各部局の施設整備の動き等に柔軟に対応しながら具現化を図るため、具体的なプロジェクトや個別計画を示すアクションプランは、3 年ごとを目安に評価し計画内容を見直すローリング計画とします。



キャンパスマスタープラン 2018 の構成

CMP2018 は序章・終章を含めて全 7 章による計画で、その内容は、「100 年の計での基本目標・コンセプト」「30 年間の長期計画であるフレームワークプラン」「9 年間のスパンで進めるキャンパスマネジメント」「3 年ごとを目安に見直すアクションプランの策定に向けたアプローチ」で構成されています。



キャンパスマスタープラン 2018 の基本目標とコンセプト

北海道大学近未来戦略 150 を実現するためのキャンパスの課題

- ①グローバルで最先端研究の実施拠点整備
- ②国際化を推進するための居住・宿泊機能の拡充
- ③留学生と日本人学生の交流拠点
- ④キャンパスを活かした持続可能な空間モデルの提示
- ⑤学生、教職員が健康で快適に過ごせる安心・安全なキャンパス整備
- ⑥世界に発信できるサステイナブルキャンパス

継承すべき北大キャンパスの普遍的価値と固有の資産

- ①都市の中の農地と附属要素が創り出す風景
- ②自然・生態環境のネットワーク
- ③歴史・文化的建造物の集積
- ④140年の歴史の中で創り上げてきた建築とランドスケープの一体的な環境

キャンパス整備の成果と課題

- ①公民連携によるサクシュコトニ川の再生
- ②環状通エルムトンネルの整備による南北キャンパスの一体化
- ③北キャンパスを活用した産学連携の推進
- ④新たな教育システムに対応したアクティブラーニングスペースの整備
- ⑤民間資金を活用したキャンパスの国際化推進のための留学生宿舎の整備
- ⑥地域に貢献する高度医療の推進に向けた設備更新、機能拡充
- ⑦入構車両抑制の抑制による環境対策と安心・安全なキャンパスづくり
- ⑧サステイナブルキャンパスの創造に向けた取組
- ⑨専門的なタスクフォースチームの組成と基礎的調査・計画策定
- ⑩キャンパスに対する学外からの評価
- ⑪キャンパスマスタープラン 2006 の点検・評価

施設整備・運営実態における重点課題

- ①大学経営方針に基づいた戦略的投資と適正な施設維持・整備のための目標設定の必要性
 - ・大学に必要な施設面積をオーバーする保有面積
 - ・予算の縮小と修繕費・施設運営費の増加
- ②新たな枠組みに対応した柔軟な土地利用・施設整備の必要性
 - ・小規模な建物の建て詰め状況
 - ・まとまった開発用地の不足
- ③大学が所有する不動産資産の経営戦略に基づいた有効活用必要性
- ④サステイナブルキャンパス評価“ASSC”から分析した課題
 - ・サステイナビリティに関する教育・研究の推進
 - ・生態環境の保全や樹木の育成
 - ・QOL向上のための設計ガイドラインの運用
 - ・再生可能エネルギーの導入
- ⑤立地都市との連携によるまちづくりへの貢献
 - ・高次機能交流拠点の役割
(第2次札幌市都市計画マスタープランにおける位置づけ)

構成員の意見・要望

総長室・部局ヒアリング、教職員・学生ワークショップ

キャンパスマスタープラン 2018 の基本目標

キャンパスの建築、ランドスケープの資産を継承し、最先端の教育・研究活動が持続的に展開できるサステイナブルでハイブリッドなキャンパスの創造

トータルデザインによる計画とマネジメント

空間創造のコンセプト

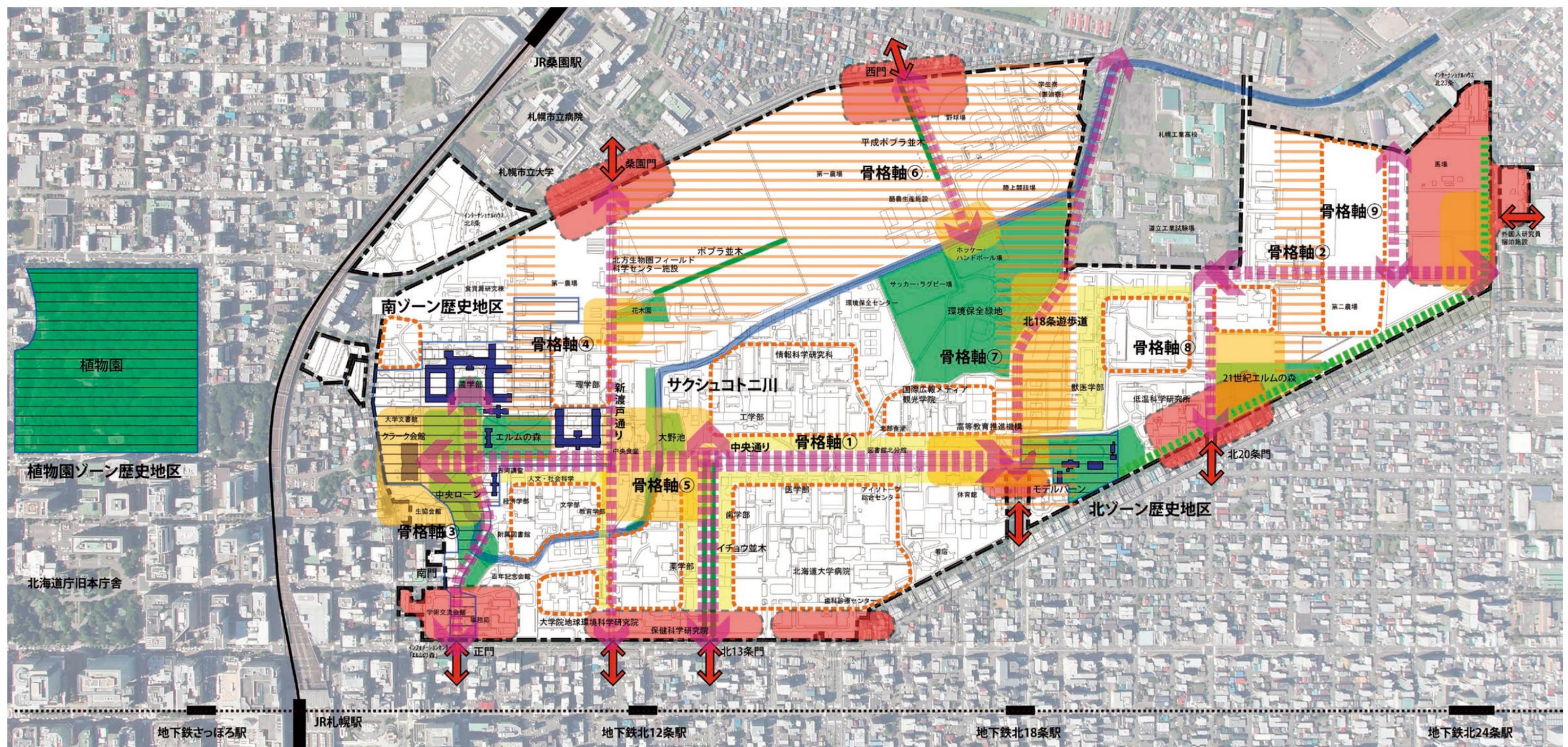
サステイナブルでハイブリッドなキャンパスをつくる 8つの要素

- ①安心・安全
- ②健康・快適
- ③誇りを持てる魅力
- ④固有の歴史的資産と生態系の活用
- ⑤建築とランドスケープの融合
- ⑥世界最先端レベルの教育・研究拠点
- ⑦国際的な活動・交流拠点
- ⑧国内外の地域振興・社会連携を支える拠点

空間創造実現のコンセプト

サステイナブルでハイブリッドなキャンパスを実現するための 4つのアプローチ

- ①サステイナブルキャンパスの概念と方向性の共有と推進
- ②大学構成員の QOL と経営向上に資する施設と環境のマネジメントの実践
- ③トップダウンとボトムアップによる合意形成
- ④キャンパス空間の質を向上させる総合的な企画・計画・デザイン手法の確立と実践



キャンパスの基本的な骨格の継承と新たな東西軸

キャンパスの成長・発展、またキャンパス形成の重要な時期に形成されてきた南北、東西の軸を基本として、今後のキャンパス発展の基軸となるものを9つの骨格軸として位置づけ、建築とランドスケープが一体となった人間を中心とした緑豊かでシンボリックな空間形成を図ります。

- 骨格軸① (中央通り)
- 骨格軸② (北18条遊歩道～北24条通)
- 骨格軸③ (正門～中央ローン～農学部)
- 骨格軸④ (新渡戸通：北12条門～桑園門)
- 骨格軸⑤ (北13条通：北13条門～大野池)
- 骨格軸⑥ (遺跡保存庭園～平成ポプラ並木～西門)
- 骨格軸⑦ (北18条門～北18条遊歩道～サクシュコトニ川最下流部)
- 骨格軸⑧ (北20条門～骨格軸②)
- 骨格軸⑨ (骨格軸②～武蔵女子短期大学東側)

キャンパス景観に配慮したゾーニング

長期にわたり保全すべき緑地・水系、歴史的資源をフレームワークプランに位置づけ、キャンパスの持続的な発展の基盤を形成するとともに、北大固有の景観を継承していきます。

	保全緑地	既存林・緑地・並木の保全エリア
	保全水系	サクシュコトニ川と自然・生態系の保全エリア
	歴史的景観保全エリア	歴史的建造物と周辺の自然環境・オープンスペースを一体的に景観保全するエリア
	ビジュアルコリドール	第一農場の農地景観、キャンパスの近景から手稲連山への眺望を保全するため建物高さを制限するエリア
	外周緑地帯	隣接地との緩衝帯等として形成するエリア

多様な交流拠点となるパブリックスペース、ゲート周辺エリアの再生

- パブリックスペース拠点**
キャンパスでの様々な交流や魅力的な活動を支える中心(ハブ)となるエリア
- ゲート周辺整備エリア**
周辺の都市機能との連携、安全で快適な歩行・滞留空間の形成を目的として再生するエリア

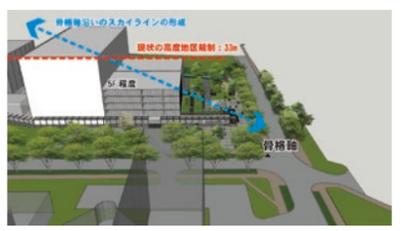
開発需要を受け入れる建物高さや形態のコントロール

建物の高さ・形態をエリアごとにコントロールし、建物の高層化や用途・機能の複合化、建築敷地の集約化を図り、敷地の細分化、建て詰まり状況を改善することで、適正な開発、施設の整備を誘導します。

	高層建物建設可能エリア	高度地区規制(33m)の緩和を図り高層建築化の推進を検討するエリア ※札幌市との協議を要する
	中低層建物建設可能エリア	高度地区規制(33m)に適合させつつ、壁面の位置をコントロールするエリア
	一般建物建設可能エリア	高度地区規制(33m)に基づき建設するエリア(高層建物建設可能エリア、中低層建物建設可能エリア、歴史的景観保全エリア・保全緑地・保全水系、外周緑地帯、ビジュアルコリドールを除くエリア)

【骨格軸①②⑤沿いの景観コントロール】

・原則、道路中心から壁面を25mセットバックし、圧迫感のない開放的な景観を維持するようスカイラインの形成に配慮



【外周道路沿いの景観コントロール】

・キャンパスと周辺市街地との境界にある幹線道路から、緩衝帯となるセットバック空間を設け市街地との調和に配慮

空間創造実現のためのフレームワークプラン

キャンパス空間の創造を実現させるマネジメントに関する9つの方針を示します。

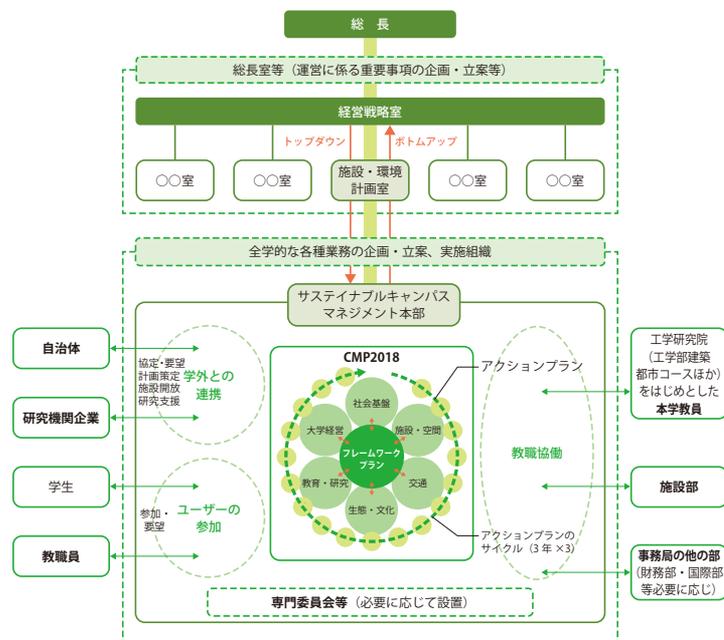
- CMP2018の全学的共有と個別の施設環境計画の誘導
- 積雪寒冷地に対応した安全・安心・防災対策
- サステイナブルキャンパス概念と方向性の全学的共有
- 適切な資産運用管理のためのアセットマネジメント
- 既存施設維持管理のためのライフサイクルマネジメントの推進
- 低炭素化キャンパスの促進
- 全学施設の統合的なファシリティマネジメントの推進
- 総合的な企画・計画・デザインのマネジメントを行う手法と体制構築
- QOLを高めるデザインガイドラインの設定

キャンパスマネジメント

フレームワークプランを具現化するため9年間のスパンで実施する6つのキャンパスマネジメントについて示します。

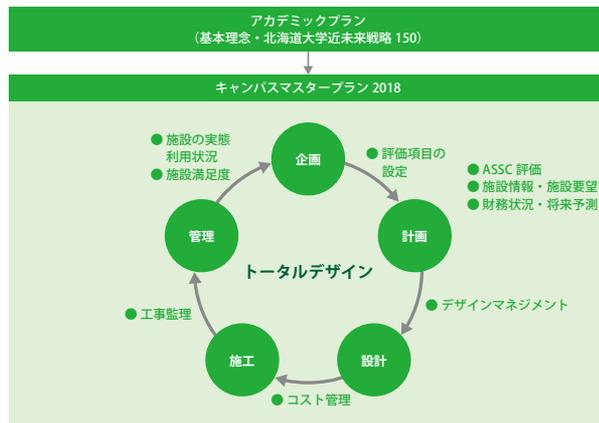
キャンパスマネジメント推進体制の構築

- 総長室を総合調整する「経営戦略室（2017年10月設置）」に、CMPの推進に関するすべての重要事項について意思決定の役割を集約
- 経営情報を共有し、経営戦略室に対して個別計画や具体的なプロジェクトの企画立案、ならびにサステイナブルキャンパス推進に必要な業務を主体的に担う全学横断的な「サステイナブルキャンパスマネジメント本部（SCM本部）」を設置
- ・SCM本部に参画する教員構成、専門委員会等の設置、施設部を中心とする事務局体制の確立
- ・経営戦略室、施設・環境計画室、SCM本部の連携による企画・立案プロセス、学内の合意形成プロセスの確立



企画・計画のマネジメントサイクル

- 施設・環境整備に係る事業計画の段階から総合的な視点に立った計画づくりを実施



持続可能なキャンパス運営

- サステイナブルキャンパスの実現に向けた目標の全学的共有
- ステークホルダーとの連携強化
- 実証空間としてのキャンパスの活用
- SDGsを見据えたキャンパス運営
- ※ SDGs: 持続可能な開発目標 (2015年9月の国連サミットで提唱された国際目標)
- ASSCによるサステイナブルキャンパス評価と改善策の実行
- ※ ASSC: 大学戦略立案の手助けとなるツールとして開発されたサステイナブルキャンパス評価システム

ファシリティマネジメント

- ライフサイクルマネジメント
- スペースマネジメント
- アセットマネジメント

計画実現の財源計画

- 財源の多角的な確保
- スペースチャージによるマネジメント経費の確保

クオリティ・オブ・ライフ向上のためのデザインマネジメント

- 施設品質向上のコンサルティング
- 建築物、外構及びサイン等の共通の指針の作成と運用
- 自然・生態環境の維持・管理・保全とパブリックスペースの質の向上
- 北国の気候・風土に合わせた環境整備と維持・管理
- 防災に関する施設・環境マネジメント
- ユニバーサルデザイン